



# 神崎小だより

神崎町立神崎小学校

平成31年1月7日

学校教育目標・・・心豊かでたくましく生きる児童の育成  
めざす児童像・・・なかよく かしこく たくましく やりぬく  
合言葉・・・「希望の登校 満足の下校」  
早寝・早起き・朝ご飯

明けましておめでとうございます。年末年始は、お元気で過ごせましたか？私は、ほとんどを家で過ごし掃除等で充実(?)した時間を過ごしました。平成30年度は、あと数か月で終わります。新しい時代が始まるわけですが、今年もよい1年になるよう全力で頑張りたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

さて、今日から3学期がスタートしました。3学期は、次の点で大きな意味を持つ学期になると考えています。それは、平成30年度のまとめの学期であり、新しい時代の始まりになる年で(平成から何という名称になるのかな?)あり、さらには子供たちにとって学年が一つ進級する年(1年生は2年生に、2年生は3年生に・・・)でもあるということです。昨年の2学期の終業式では、4年生の飯田大翔さんと1年生の鈴木幸来さんが発表の中で2学期を振り返ると共に3学期の抱負を発表していました。人が色々な面で向上するためには、振り返るだけではだめで、それをどう次に生かすかという視点を持つ必要があると考えます。

では、神崎小学校の子供たち一人一人がさらに向上するために、一人一人がさらにどんな視点から努力することが大切か少し考えを述べてみたいと思います。

私たち教職員は、学校運営をしてくうえで目標にしているものがあります。それは、何を目指して学校づくり、人づくりを行っていくかということです。具体的には、学校教育目標をどのように実現させていくかということ、めざす児童をどのように育てていくかということです。1学期は、「なかよく」を重点に、2学期は「たくましく」「やりぬく」を重点に指導してきました。3学期は、まとめの学期でもあるということから「かしこく」と「なかよく」を重点に指導にあたって参りたいと考えています。「かしこく」を挙げる理由としては、今年度の学習は次の学年の学習の基礎になるからです。私は、「かしこい人」というのは、失敗をしない人のことではなく、失敗の原因を探り工夫して解決していく人のことだと思っています。困難なことや一時の失敗を恐れて、恥ずかしい思いや大変なことから逃げていたのでは、進歩や向上は期待できません。「なかよく」を重点に置くのは、学校で学習や生活をし、かしこくなっていくうえでとても大切であると考えたからです。間違いを冷かしたり笑ったりする集団では、自分の意見がなかなか言えません。そうなるいろいろな考え方があることに気づいたり、友達の良さに気づいたりする機会もなくなってしまいます。性格も違う、顔も違う、育ってきた家庭環境も違う、そうした大勢の子供たちが生活や学習を共にしています。時には意見の対立からけんかになってしまうことがあるかもしれませんが、いろいろな価値観があることに気づき、それを認め合うことが人間関係づくりには必要です。しっかりとコミュニケーション(相手の言うことをきちんと聞き、それに対して自分はどうか考えるかをきちんと伝えあう)を取り合い、相互理解と互いに納得しあって物事を進めていくことが、本当に仲の良い関係になるには大切であると思います。いろいろと話してきましたが、これからを生きる子供たちにどんな力をつけさせていくことが大切か、私は、本校がめざす児童像の具現化がその力を身に付けさせるうえで大切なことであると考えます。

## 教室はまちがうところだ

みんなドシドシ手をあげて

まちがうことを言おうじゃないか

まちがうことをおそれちゃいけない

まちがった意見を、まちがった答えを

ああじゃないか、こうじゃないかと

みんなでも出し合い、言い合う中で

ほんとのものを、見つけていくのだ

そうしてみんなで、伸びていくのだ

いつも正しい答えを言わなくちゃと思ってるから

間違っていることをわかって手をあげないで、小さくなら

て時間が過ぎる

仕方がないから先生だけが喋って、生徒は上の空

それじゃあ伸びていけない

神様さえ間違っただけの中、

ぼくらが間違っただけで当たり前じゃないか。

うっむき加減でそうって上げた手、先生が指した

まったりと胸が大きく鳴って、立った途端に忘れてし

喋ったけれど、何を言ったかわからないまま座って

しまった。

体が涼しくなると、ああいえばよかった、と

後から良いことが浮かんでくる。

それでいいのだ、いくどもいくども

おんなじことをくりかえすうちに

それから、だんだん、ときりがやんで

言いたいことが、言えてくるのだ

はじめからうまいこと、言えるはずなんだ

はじめから答えが、あたるはずなんだ

何度も何度も言って、間違っうちに

言いたいことの半分くらいは言えてくる

たまには答えもあたるようになる

まちがいでいいから、僕らの教室

おそれちゃいけない、わらっちゃいけない

安心して、手をあげろ

間違ったって、笑ったり馬鹿にしたりする奴はいな

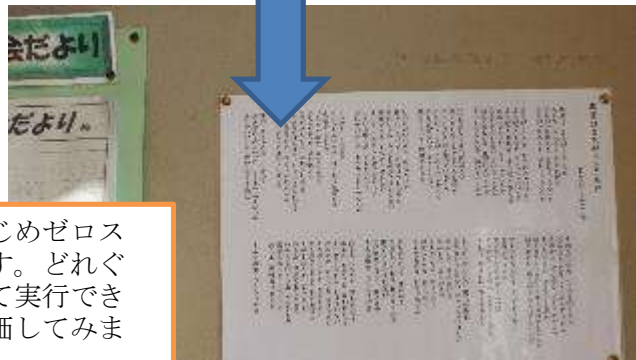
間違ったって誰かがおしてくるし、教えてくれ

困ったときには先生が、無い知恵絞って教える

そんな教室作ろう・・・以下省略



前頁の「教室は間違るところだ」の詩は教室に掲示しています。



今年度のいじめゼロスローガンです。どれぐらい意識して実行できたか自己評価してみました。



私と小鳥と鈴と  
金子みすゞ

私が両手をひろげても、  
お空をちつとも飛べないが、  
飛べる小鳥はわたしのやうに、  
地面を遠くは走れない。

私がかからだをゆすつても、  
きれいな音は出ないけれど、  
あの鳴る鈴はわたしのやうに  
たくさんを唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、  
みんなちがつて、みんないい。

昨年度の男子優勝に続き、本年度は女子の優勝が千葉日報で再び紹介されました。



10月に行われた多古町・神崎町の小学校ミニバスケットボール大会の結果が、先日の千葉日報に掲載されました。大会をめざし、また、大会を通して多古町の児童と神崎町の児童の交流や、バスケットボールの技能の向上、子供たちの心身の健やかな成長という面からも寄与してきた大会ではありますが、少子化や小学校部活動の在り方等、時代の流れの中で本大会も来年度の大会を最後に14年の歴史に幕を下ろすことになりました。

現在の5年生や4年生が、この大会の最後の出場ということになります。現在、朝練習では、5年生を中心に新チームを結成して取り組んでいるところですが、来年度の大会に向けて、限られた時間の中で集中して練習に取り組んで欲しいと思います。

猪突猛進！今年は亥年です。夢や目標に向かってまっしぐら！目標を忘れないで地味な努力が、どれだけ継続できるかが目標達成のカギです。写真は、1年生から6年生の教室に掲示された個人目標です。

